

西之表市 文化財要覧



西之表市教育委員会

発刊にあたって

西之表市教育委員会教育長 有 島 正 之

種子島は、南方から流れくる黒潮海流の影響を受け、古来様々な文化が流入してきました。また、北から本土の文化が入り、独自の文化を形成してきたところです。

そのような地理的要因の中で、種子島の自然や文化が育まれ、先人たちによって多くの文化(財)が残されてきました。

文化(財)は自然や先人たちの残した大切な郷土の遺産であり、また歴史そのものであり、かけがえのないものがあります。このような文化財は、一度失われると、復活が非常に困難であります。そのような中で、これらの文化遺産を後世に残していくことは現在生きている我々の責務であると思います。

ここに掲載されたものは、現在西之表市に残る、国、県、市指定文化財です。この他にも市内には多くの文化財があります。

今後、お互いが文化財の大切さを認識するとともに、大事に保存・継承していくことに努めて参りたいと思います。

最後に、この冊子を文化財の保護、啓発に役立てていただければ幸いです。

平成14年3月

■ 市指定文化財 ■

19 太鼓山 (")	27
20 舟祝い唄 (")	28
21・22 温座祈念 (")	29
23 花 踊 (")	30
24 古田棒踊 (")	31
25 丸木舟製作工具 (有形民俗文化財)	32
26 丸木舟資料 (")	33
27 本源寺石塔 (")	36
28 本源寺什宝 (")	37
29 法華宗御曼陀羅 (")	38
30 御種子蒔石 (")	39
31 石板碑 (")	40
32 手洗鉢 (")	41
33 赤尾木城跡 (史跡)	42
34 種子島家墓地(御坊墓地) (")	43
種子島家墓地(御拝塔墓地) (")	44
35 日典上人法華弘布並びに法難の地 (")	45
36 能野焼窯跡 (")	46
37 製鉄所跡 (")	47
38 ガジュマル防潮林 (天然記念物)	48
39 ソテツ自生群落 (")	49
40 メヒルギ自生群落 (")	50
41 ツキイゲ自生群落 (")	51
42 ヤッコ草 (")	52
43 漣 痕 (")	53
44 砂火山 (")	54
45 ウシウマの骨格 (")	55
西之表市内文化財地図	56
文化財一覧	57

【国指定天然記念物】

アカヒゲ

(昭和49.1.23)

国指定天然記念物

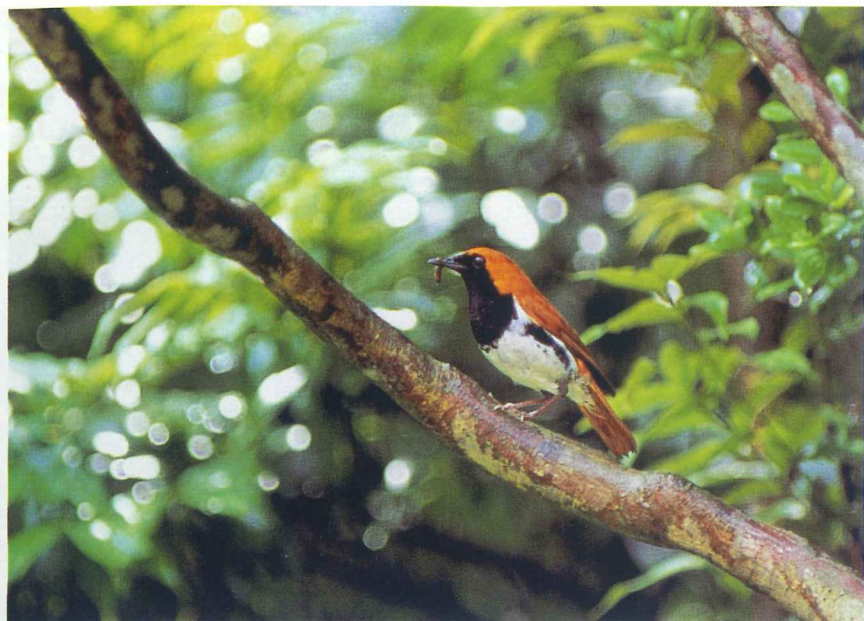
スズメ目ヒタキ科ツグミ属のアカヒゲは、日本列島のうちでも南西諸島にしか見られない特産種である。全長13cmでゴマドリに似ている。雄は上面が濃暗赤色、額と眼先、喉、胸は黒色、下面は白く、おきに黒斑がある。雌は上面が赤褐色で、下面は灰色と白の斑、腹の中央は白い。産卵のくぼみや樹洞に巣をつくり、普通4個の卵を産む。産卵期は4月中旬から6月頃まで。よく茂った暗い常緑広葉樹林に生息。特に宮城沿いでよく見られる。ミミズやクモ類、昆虫類を主食としている。

鹿児島県の種子島、屋久島では近年ほとんど観察記録はないが、奄美大島、徳之島、トカラ列島、中之島、豊後島などに生息している。

【国指定天然記念物】

1 アカヒゲ

(昭和45.1.23)



スズメ目ヒタキ科ツグミ亜種のアカヒゲは、日本列島のうちでも南西諸島にしか見られない特産種である。全長14 cmでコマドリに似ている。雄は上面が濃暗赤色、額と眼先、ほお、喉、胸は黒色、下面は白く、わきに黒斑がある。雌は上面が赤褐色で、下面は灰色と白の斑、腹の中央は白い。

崖のくぼみや樹洞に巣をつくり、普通4個の卵を産む。産卵期は4月中旬から6月頃まで。よく茂った暗い常緑広葉樹林に生息、特に溪流沿いでよく見られる。ミミズやクモ類、昆虫類を主食としている。

鹿児島県の種子島、屋久島では近年ほとんど観察記録はないが、奄美大島、徳之島、トカラ列島、中之島、悪石島などに生息している。

2 カラスバト

(昭和46.5.19)



ハト目ハト科のカラスバトは全身黒っぽく、頭部に紫、体には緑色の光沢がある。くちばしも黒色に近く、脚は赤みを帯びた紫色。尾が長く全長は40cm前後、翼を広げると60cm以上にもなり、ハト類では最も大型。キジバトやアオバトよりずっと大きい。

琉球諸島、奄美諸島、大隅諸島、五島諸島、伊豆諸島などの海岸線に近いスタジイ、タブノキ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹林に生息。木の実や花芽などを食べる。樹上の実のほか、地上でも歩いてエサを探す。高さ2m～7mぐらいの樹枝や樹洞に巣を作る。巣は直径25cmほどの皿形で、2月～9月に1個産卵する。

3 オカヤドカリ

(昭和45.11.12)



甲殻綱十脚目オカヤドカリ科に属するオカヤドカリは、その名の通り陸上で生活するヤドカリの仲間で、日本では6種ほど確認されている。鹿児島県では南西諸島を中心に広く分布している。昭和61年の調査でこのほかムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリの生息も確認された。

頭胸部は甲殻に覆われているが腹部は軟らかく、宿貝に巻貝を利用する。甲長は4 cm前後、大きなものは4.5 cm、70gぐらい。体色は暗褐色。第一脚のはさみ脚は左側が大きく、第一触覚のひげが長い。脱皮とともに成長し、体に適した宿貝を次々に交換する。宿貝は陸生貝や水生貝などさまざまだが、マイマイが圧倒的に多い。産卵するときだけ海に出る。夜行性のため日中は草むらや石の下などに潜んでいる。雑食性で野菜や果物、魚介類などを食べる。

【鹿児島県指定文化財】

1 種子島銃

有形文化財（工芸品）
（昭和30.1.14）

鹿児島県指定文化財

天文を2年(1542)8月5日、種子島の南端門倉岬に伊田船が漂着。この船にはポルトガル人が乗っており、我が国で初めての西欧人との出合いであった。

時の島主第14代種子島時義は、ポルトガル人が持つ諸島の威力に感ぜ、高直を払わずに銃を購入。一挺を軍用器物へ贈るが、失敗す。残る一挺も明治15年の西南の戦の際、鹿児島市の種子島屋敷において没失した。

指定の銃砲は、その後幸い西村家に秘伝されていたポルトガル銃が種子島家に献上され、保存されてきたものである。

（種子島開発総合センター展示公開）

（所有者：種子島時邦）

【鹿児島県指定文化財】

1 種子島銃

有形文化財（工芸品）
（昭和30.1.14）



天文12年(1543)8月25日、種子島の南端門倉岬に明国船が漂着。この船にはポルトガル人が乗っており、我が国で初めての西欧人との出会いであった。

時の島主第14代種子島時堯は、ポルトガル人が携える鉄砲の威力に感じ、高価をいとわず2挺を購入。一挺を津田堅物へ贈るが、後焼失。残る一挺も明治10年の西南の役の際、鹿児島の種子島屋敷において焼失した。

指定の鉄砲は、その後幸い西村家に秘伝されていたポルトガル銃が種子島家に献上され、保存されてきたものである。

(種子島開発総合センター展示公開、
所有者：種子島時邦)

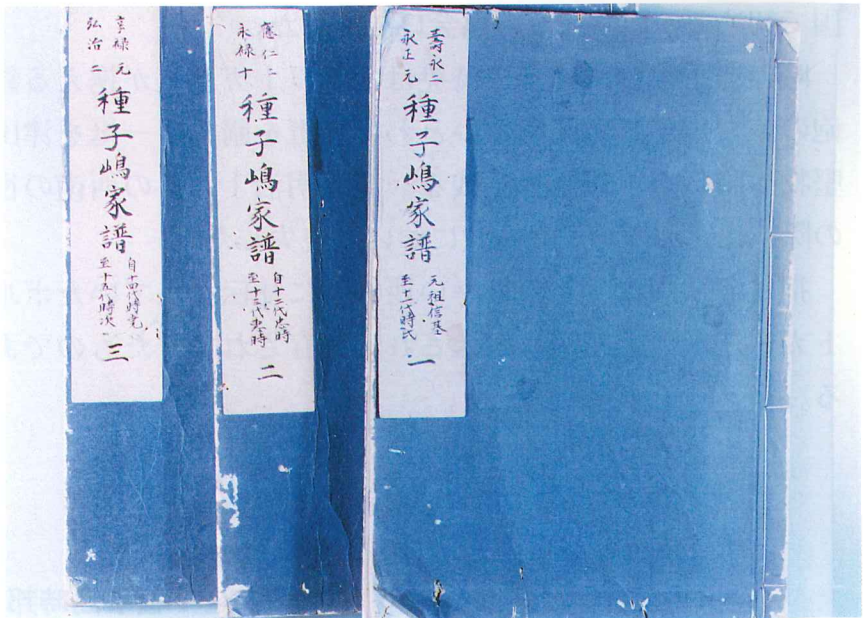
2 種子島文書

有形文化財（古文書）
（昭和39.3.23）

種子島家は、鎌倉時代、初代種子島信基が南海十二島を治めることに始まり、種子島の島主として明治時代まで及んだ。

中世・近世初頭の原文書の一部は、第2次世界大戦中、鹿児島市で戦災焼失したが、それらの写しを含む「種子島正統系図」20冊、「種子島家譜」89冊をはじめとして、「種子島譜」、「種子島氏庶流系図」等の系譜類と、「慶長十六年高帳」「御家年中行事」等をはじめとする近世の島政、家政関係史料、明治年間の日記類を多数伝えている。

（所有者：種子島時邦）



3 種子島大踊

無形民俗文化財
(昭和43.3.29)



現和武部の大踊は、「かけうち太鼓」とも称される太鼓踊りの一種である。いくつもの踊りから構成されているので「大踊」とよぶ。

大踊は鎌倉から伝わったとか、室町時代に種子島公が、京都で見た踊りを家来たちに習得させたものであるとかいわれている。

この系統の踊りは、種子島全域に伝承されており、「安城踊」ともいわれ、普通3～4種類の踊りしかないが、武部には8種類残っていて、それぞれに「寄せ」「出端」「本踊り」「崩し」「引端」の5つからなるので、合計40通りの踊りとなる。

(所在地：西之表市現和武部)

4 横山盆踊

無形民俗文化財
(昭和43.3.29)



寛永5年(1628)2月、日向高岡の地頭比志島国隆が、悪政の理由で種子島に遠島になった時、その愛妾阿久根の千代女は、国隆のあとを追って単身種子島に渡ってきて、二人は横山に住みついた。しかし、同年11月、国隆は切腹を命じられ、この時千代女も殉死した。

横山の人たちは、二人の死をいたみ、特に千代女の節婦としての心情をしので、以来毎年旧7月7日にその霊をまつり、踊りを奉納するようになった。これが、「横山盆踊」で、横山神社境内で行われる。

(所在地：西之表市上西横山)

5 めん踊

無形民俗文化財
(昭和46.5.31)



種子島には、古くから面をかぶる踊りはあったようだが、江戸時代初期頃伝来した「ひょうたん踊り」と一つになって、独特の「めん踊」ができたと伝えられる。この系統の踊りは、島内では一般に「ひょうたん踊り」とよび、数か所に見られるが、面をかぶるのは深川だけである。

以前は、各家の長男だけが踊り、二男、三男や他地区からきた養子には踊らせなかったという。住吉深川に伝えられている。

(所在地：西之表市住吉深川)

6 大的始式

無形民俗文化財
(平成4.3.23)



毎年1月11日午後6時、栖林神社の弓場で直径5尺8寸(1m75cm)の大的を射て、その年の悪魔災難などを払い清め、島内の平安、無病息災を祈願する古式床しい行事である。

第12代島主種子島忠時が招いた、弓の指南役の武田筑後守光長が、文亀元年(1501)宮中で行われていた御的始式を伝えたのが起源である。

松明をたき三鱗(種子島家御紋)の陣幕を張り巡らした中で、6人の射手が36本の矢で大的を射るが、35本の矢が的中するとき「満つれば欠くる」の戒めにより最後の1本は故意にはずされる。

(所在地：西之表市西之表中目 栖林神社)

7 奥ノ仁田遺跡出土品

有形文化財（考古資料）
（平成11.3.19）



西之表市立山の奥ノ仁田遺跡は、平成5年農道整備に伴い発掘された遺跡で、縄文時代草創期（約12000年前）の集石・配石・土坑が検出され、土器片1500点、石器類320点が出土した。土器は、貝殻で降帯文を施したものが多量に出土し、石器は石斧・石鏃・磨石・石皿などが見られ、磨製石鏃は国内で最古のものとして注目された。これらは、縄文時代草創期において種子島と本土との交流があったことの証拠となった。

出土品のうち、土器類130点、石器類73点が文化財に指定されている。

（所有者：西之表市）

【西之表市指定文化財】

1 矢及び矢尻

有形文化財（工芸品）
（昭和37.8.30）

西之表市指定文化財

（種子島開発総合センター展示公開）
所有者：種子島チカ

2 矢及び矢尻

有形文化財（工芸品）
（昭和37.8.30）

江戸時代軍陣に用いられた矢である。特徴は、矢竹の節の間に漆を塗り込めて先端を鋭くしている。村の師範家に伝わる優雅な一握りの矢と矢尻である。

（所有者：西之表市西之表小牧 河内ひさ子）

3 鐙

有形文化財（工芸品）
（昭和37.8.30）

赤銅製で、図柄は馬。

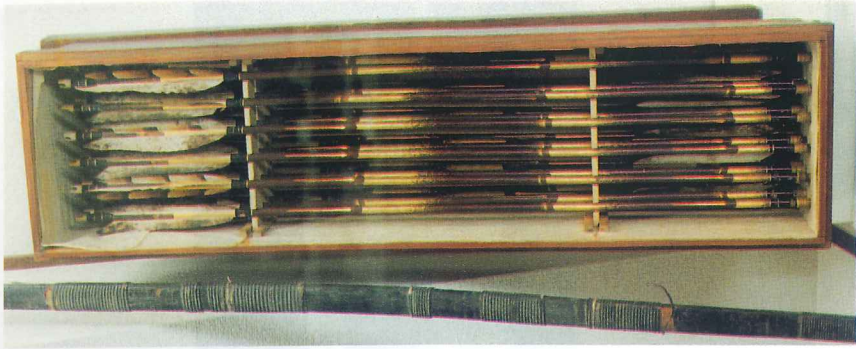
銘 種子島住 兼近 文化元年四月吉日

（所有者：西之表市西之表納僧 河内家）

【西之表市指定文化財】

1 矢及び矢尻

有形文化財（工芸品）
（昭和37.8.30）



（種子島開発総合センター展示公開、
所有者：種子島チカ）

2 矢及び矢尻

有形文化財（工芸品）
（昭和37.8.30）

江戸時代軍陣に用いられた矢である。特徴は、矢竹の節の凹みに漆を塗り込めて先端をぼかしている。弓の師範家に伝わる優雅な一揃いの矢と矢尻である。

（所有者：西之表市西之表小牧 河内ひさ子）

3 鐔

有形文化財（工芸品）
（昭和37.8.30）

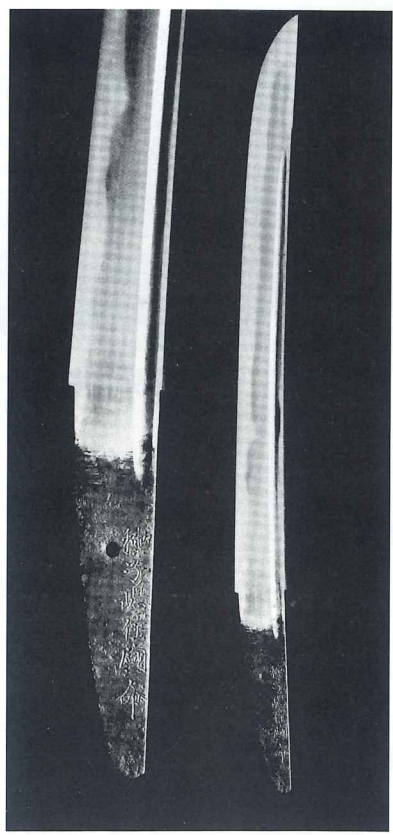
赤銅製で、図柄は馬。

銘 種子島住 兼近 文化元年四月吉日

（所有者：西之表市西之表納曾 河内家）

4 小 刀

有形文化財（工芸品）
（昭和37.8.30）



刀長 36.4cm 反り 0.4cm

銘 種子島住 国命

国命は江戸時代の刀工である。作品に品位があり総体に
頃合いで手持ちが良く、地鉄剛く鍛え精緻で地刃共に沸づ
き砂流し金筋が入る。種子島が誇りうる名工である。

（所有者：西之表市西之表中目 井元正流）

5 能野焼花瓶

有形文化財（工芸品）
（昭和39.2.20）

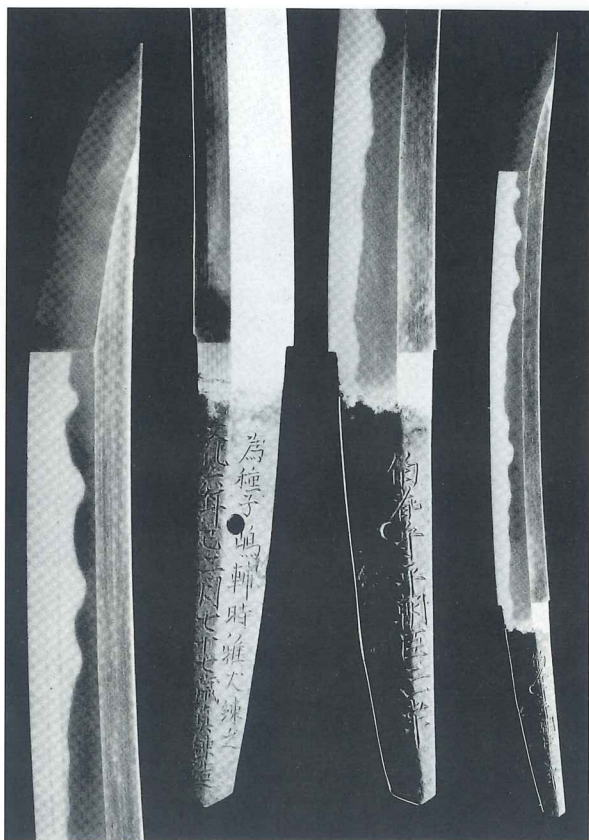


江戸時代中期に、住吉能野で焼かれたもので、種子島で初めて産業化された焼き物である。これは、その中でも最も高度な技術をこらした作品で、鉄色の焼き肌に白い釉のちらしかけ、花形の透し彫りがあり、重厚で気品がある。

（種子島開発総合センター所蔵）

6 脇差し

有形文化財（工芸品）
（昭和52.1.13）



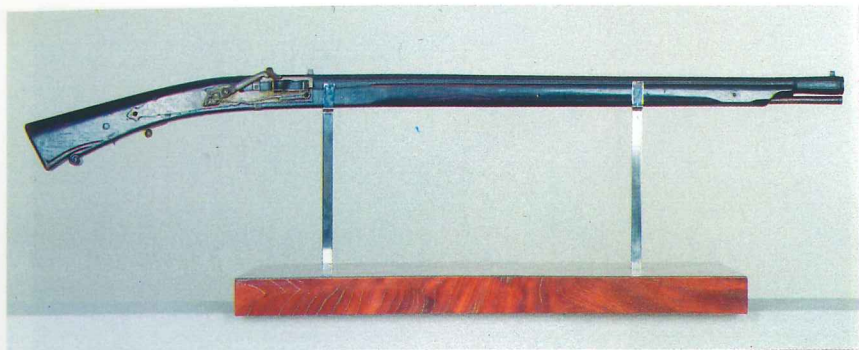
刀長 38.5cm 反り 1cm 銘 伯耆守平朝臣正幸 為
種子島輔時雅丈鍊之 文化六年己二月

この脇差しは、23代島主種子島久道の元服祝いに作られた。権威ある認定書付きで、伊地知家3代正幸作である。ちなみに、薩摩新刀の最上作、種子島家ゆかりのものである。

（所有者：西之表市西之表松島 田上容正）

7 伝八板金兵衛作火縄銃

有形文化財（工芸品）
（昭和52.9.8）



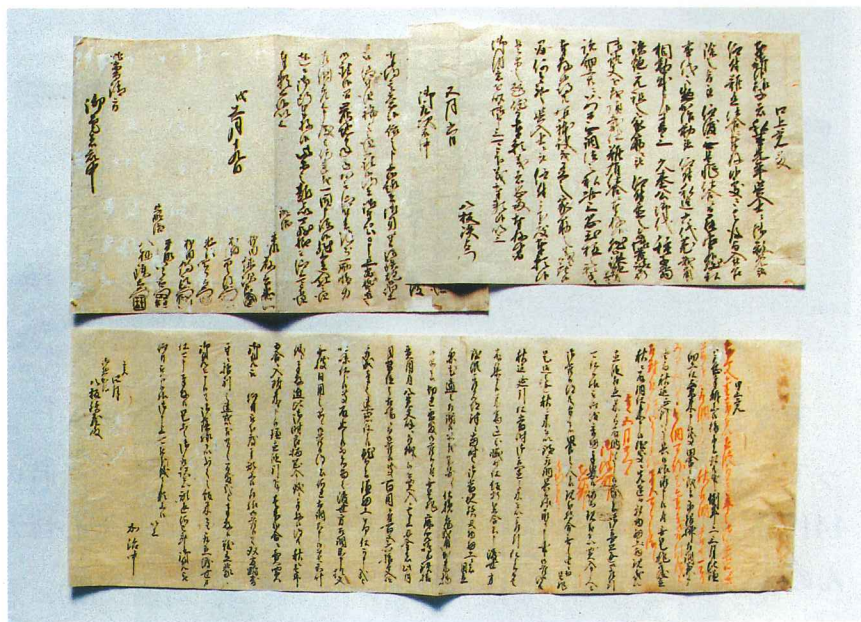
天文12年(1543)に、種子島に漂着したポルトガル人によって、初めて我が国へ伝えられた火縄銃の模作を、当時の14代島主時堯から命じられた八板金兵衛清定は、苦心惨たんの末、その翌年国産銃の製作に成功した。

これは、種子島家に古来八板金兵衛作といい伝えられてきた火縄銃である。

(種子島開発総合センター展示公開、
所有者：種子島時邦)

8 鉄砲鍛冶文書

有形文化財（書跡）
（昭和53.7.11）



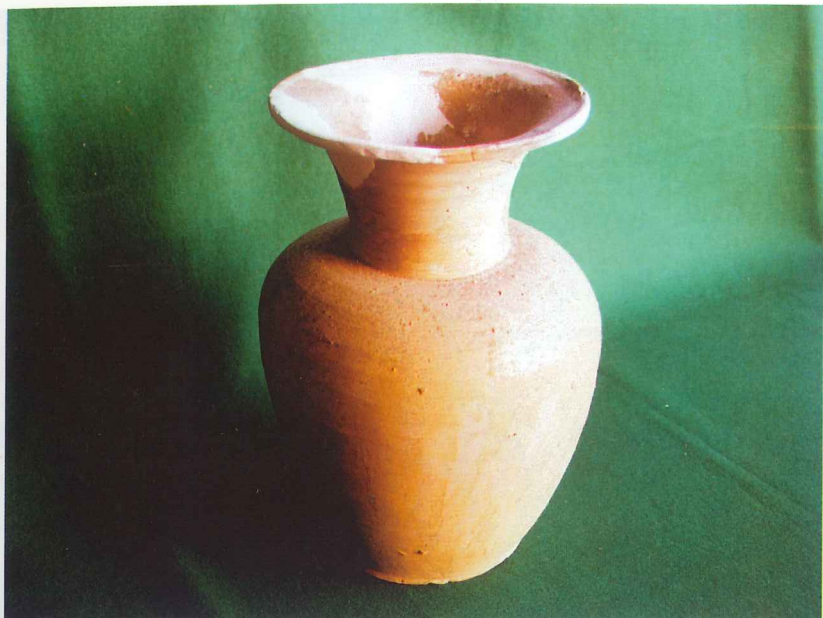
天文12年(1543)に種子島へ火縄銃が伝えられてから、鉄砲の需要は急に増加し、20数軒の刀鍛冶は次々に鉄砲鍛冶に転職した。

これらは、その時代の鉄砲鍛冶文書である。

（種子島開発総合センター所蔵）

9 猿投窯灰釉長頸瓶

有形文化財（歴史資料）
（昭和53.7.11）



昭和44年、現和西俣の石塚の農地で出土。猿投窯灰釉陶は、11世紀前後、尾張国(愛知県)の猿投窯を中心に生産されたもので、この灰釉長頸瓶は、ほぼ完全に近く、大形で堂々たる形姿は、高く評価され、極めて貴重なものである。種子島の平安後期の歴史をさぐる上で、貴重な逸品といえる。

（種子島開発総合センター所蔵）

10 越州窯青磁破片

有形文化財（歴史資料）
（昭和53.7.11）



昭和44年、猿投窯灰釉長頸瓶と同所、同時に出土。この青磁は、中国の北宋代10～11世紀、浙江省の飾姚を中心に生産されたもので、この中に托という出土例の極めて少ない器形を含んでいる。これは日本で二例目で貴重であると同時に、我が国、越州窯青磁出土の南限になる。これも種子島の平安後期の歴史をさぐる上で、貴重な逸品といえる。

（種子島開発総合センター所蔵）

11 長沙窯青磁水注片

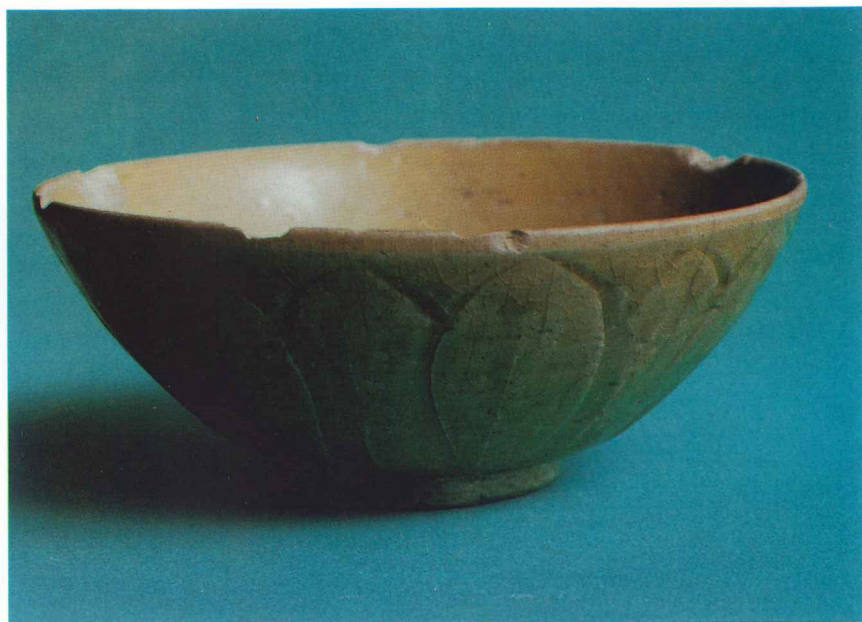
有形文化財（歴史資料）
（昭和53.7.11）



昭和44年、猿投窯灰釉長頸瓶と同所、同時に出土。この青磁は、中国湖南省、長沙瓦渣坪窯を中心に生産されたもので、わが国の出土例は極めて少なく、全国で僅かに5か所、特に水注片は資料価値の高いものである。これも種子島の平安後期の歴史をさぐる上で、貴重な逸品といえる。

（種子島開発総合センター所蔵）

12 南宋竜泉窯青磁中型碗 有形文化財（歴史資料）
（昭和53.7.11）



文化年間、馬毛島で発掘された旨、現品に墨書がある。南宋時代の竜泉窯の青磁で、ほとんど完全な形を保っている。平安中期の日宋交通、更には種子島歴史を解く一つの鍵として重要なものである。

（種子島開発総合センター所蔵）

13 金メダル

有形文化財 (歴史資料)
(昭和55.7.1)



アメリカの帆船カシミア号は、明治18年(1885)種子島の東海岸で暴風雨に遭い沈没した。

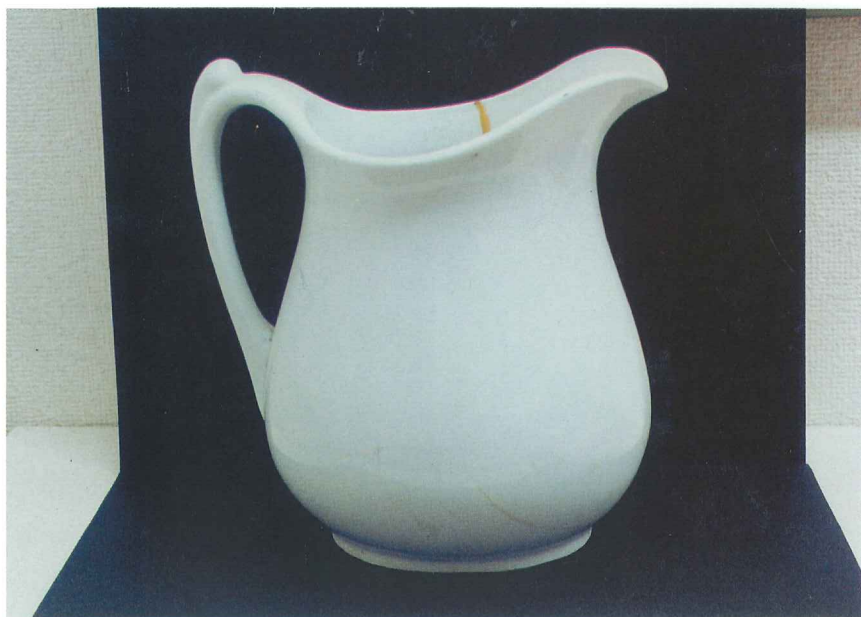
乗組員15人のうち、3人は死亡、7人は立山へ、5人は伊関に漂着。両村では手厚く看護して米国へ帰国の手助けをした。

この金メダルは、その返礼として米国議会から両村へ贈られたものである。また金5000ドルも贈られ、両村の子どもの教育に充てられた。

(種子島開発総合センター所蔵)

14 水さし

有形文化財（歴史資料）
（昭和55.7.1）



伊関に漂着したカシミア号の乗組員が持っていたもの。
乗組員は、この水さしに入れてあった酢を飲みながら、イ
カダで漂流していたといわれる。

（所有者：西之表市伊関 鎌倉平吉）

15 絵馬

有形文化財（歴史資料）
（昭和58.6.25）



この絵馬は、第23代島主久道の名跡、松寿院が栖林神社に奉納したもの。薩摩の優れた押絵師の作とみられる。

大正14年1月5日の西之表大火の際、猛火の中から持ち出され難を逃れた。

（所在地：西之表市西之表中目 栖林神社）

16 源太郎踊

無形民俗文化財
(昭和39.2.20)



「源太郎踊」は、いつごろ誰によって住吉に伝えられたかはっきりしないが、歌詞や踊り方からみて室町時代から江戸時代初期にかけて種子島に伝わり、別系統の太鼓踊りの影響も受けていると思われる。歌詞は7節からなり、それぞれ独立した歌詞が集まってできている。それに伴い隊形・楽拍子等それぞれ異なった多様な変化・趣をもった踊りである。

(所在地：西之表市住吉)

17 獅子舞

無形民俗文化財
(昭和44.11.13)



明治時代、大分県から椎茸栽培のため古田に移住してきた川野、石井の両氏が区民へ教え、大正天皇の御即位記念として、古田豊受神社に奉納されて以来、現在に至っている。

獅子と天狗の戦いに脇役として猿を交えて、大太鼓、小太鼓、横笛などではやしたて、激しく踊る踊りである。歌詞はない。

(所在地：西之表市古田)

18 安納棒踊

無形民俗文化財
(昭和49.1.1)



棒踊りは種子島各地にあるが、いずれも鹿児島より明治になって移入してきた芸能である。

「安納棒踊」は、始良郡加治木町より軍場に移住してきた大工石野政蔵氏から習った踊りである。

元来種子島の芸能は優雅でおおらかであるが、薩摩示現流の気合のこもった棒踊りも、定着している。

(所在地：西之表市安納軍場)

19 太鼓山

無形民俗文化財
(昭和42.4.13)



八坂神社祇園祭行事の中で、最も勇壮で男性的な行事である。

編笠に白装束の若衆約80人が、白はちまきに白装束の少年4人と太鼓を乗せたやぐらをかつき「チョッサー・サセサセ」のかけ声をはりあげ、太鼓を打ちならしつつ、八坂神社から市街地を通り王之山神社まで練り歩く。特に、途中甲女川を渡る太鼓山の光景は壮観である。

チョッサーは長傘（チョウサン）からきているといわれる。

(所在地：西之表市西町 八坂神社内)

20 舟祝い唄

無形民俗文化財
(昭和43.12.1)



種子島の浦々では、正月2日各舟主が舟の中央に舟霊様をまつり、漁民の安泰と豊漁を祈願して、舟祝いの行事を行う。

住吉浜之町では、漁民がべんざしの家に集まって行く。その折、皆で舟祝いの唄を唱うが、なかでも「つなざらえ」の唄は、全国で5指の内に数えられる気品高いものである。

(所在地：西之表市住吉浜之町)

21・22 温座祈念

無形民俗文化財
(昭和46.5.13)



法華宗の本源寺並びに日典寺においては、毎年1月11日、島内法華宗の各寺から僧侶が集合して、夕方6時から13日朝まで夜を日についで、陀羅尼品1000巻を誦して、その年の病魔、災難などを払い清めて、島民の無病息災を祈念する行事である。

一説には、16代久時の朝鮮出兵が起源だといわれており、本源寺隣の栖林神社の「大的始式」と同時に行われる。

(所在地：西之表市西之表中目 本源寺)

(所在地：西之表市下西 日典寺)

23 花 踊

無形民俗文化財
(昭和55.7.1)



今から600年くらい前、種子島の北端浦田小浜に上陸した都の落人が、都の思い出をこの踊りに託して伝えたものといわれている。極めてゆるやかなテンポで、優雅な踊りである。花田植え踊りの特異な型と思われる。

(所在地：西之表市国上寺之門)

24 古田棒踊

無形民俗文化財
(平成11.4.7)



大正10年、日置郡から安城に移住後、古田に住むようになった上妻次郎氏が、当時の青年会長の上妻静馬氏等に教えたのがはじまりである。

その後、古田豊受神社の願成就で披露されてきたが、戦時中以降しばらく途絶え、昭和54年に復活して今日に至っている。

(所在地：西之表市古田)

25 丸木舟製作工具

有形民俗文化財
(昭和44.4.12)



種子島の丸木舟は、ヤクタネゴヨウという良質の巨木を用材として作られ、その用具にも独特のものがある。

この工具一式は、安城大野の大工長野実義氏が使用していたものである。

(種子島開発総合センター展示、
所有者：長野実美)

26 丸木舟資料

有形民俗文化財
(昭和44.4.12)

2



供物は、舟主が早朝海からとってきた小石で作った「シユエーレ」、神酒「米」塩などです。

1



丸木船の製作工程

ヤクタネ五葉松
種子島東部山中に自生

4



切断
り、一尺(600mm)に計
る。

丸木(ツシ木)の設置
股木を使って、丸木を水平に
なすように、シシ木を敷き、
かすがいで固定します。
舟の周りを土でなす土溝を掘り
うらます。

3



足場づくり
五十本あまりの足場木を敷
い、土を足場をつくらす。

脚身の力をこめて舟をふり
おろす。二人の押勝がひた
りとおまわなければならない

6



舟の外形ができあがる。
年季の入った山崎のハツル
カヌーをかけたようにきれい
だ。

大きなハツルヨキをふりま
わすために、足場を安定させ
る。そのために足場木を設置
する。

5



ハツル
舟の上側と底面をハツリ、
ヨキで前後一尺(300)お
きにきずをつけて、横から力
一杯に打ちこむ。

直線をつつ
直線は舟体の中心となる脚
です。この足をもとにして、
舟の軸を決めます。
舟の軸が決まると、胴部を
削ります。削り取られた大き
な木片は、アカトリヤナへの
ふたとなります。

14



舟主が海に投げこまれた
これは儀礼の一つで、この角
が時化や危険にあわれないよう
に、前もって危険にあつてお
ころとするものです。

家族のものも、今日海に投
げこまれます。船主はこれ
がいで逃げまわりますが、
舟主たちがかつたし、必ず
海に投げ込みました。



舟おろし
潮の満ち初めを待つて、舟
おろしがおこなわれます。
供物(海酒、酒、シメテ、
月形の餅、月形の餅、月形
の餅、五形餅、又ホリ、大
道具など)、舟主が、
最後の仕事を無事定船に
終り、この舟の大家と安を祈り、
舟おろしは、船中全部の
ものが参加しておこなわれます。

漕水
いよいよ漕水です。家族中
皆の加勢をもらって、舟を海
におたします。

13



舟おろし
舟おろしの際、舟主は今ま
でお世話になった人々を招待
して、大祝いをする。
踊りかどひだし、舟祝いは、
おそくまでにぎやかにおこな
われます。

舟祝い
神へ出た舟は、右へ三回
大きく漕きまわります。こ
うにふたつ漕ぎ出た舟は、こ
とへ神への報告と、舟の出来
具合を確かめるためです。

帆が上げられた。漕も強い
足も早い。おそろこの舟は
神の加護のもとに、多くの海
の幸を、人々に与えるにちが
いありません。

15

丸木舟製作工程写真一式。丸木舟製作工程書籍。ヤク
タネゴヨウの伐採から、浸水式までの一連の作業を記録し
た貴重なものである。

(種子島開発総合センター所蔵)

27 本源寺石塔

有形民俗文化財
(昭和46.5.13)



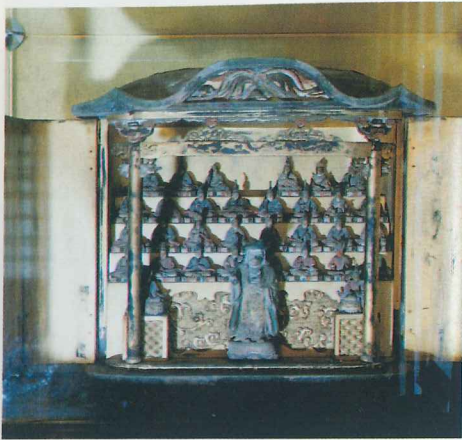
第11代島主時氏は法華宗に改宗し、本源寺を建て、日良上人が開山した。それに縁故のある石塔群である。

日良上人碑、日良上人墓、日蓮上人550御遠紀報恩碑、石板碑、供養碑、招魂碑、復興始祖(日経上人墓)、復興二祖(日皓上人墓)、復興三祖(日誘上人墓)、供養碑、地眼

(所在地：西之表市西之表中目 本源寺境内)

28 本源寺什宝

有形民俗文化財
(昭和46.5.13)



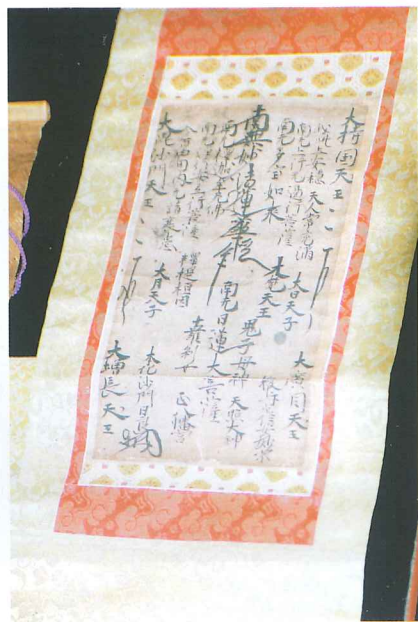
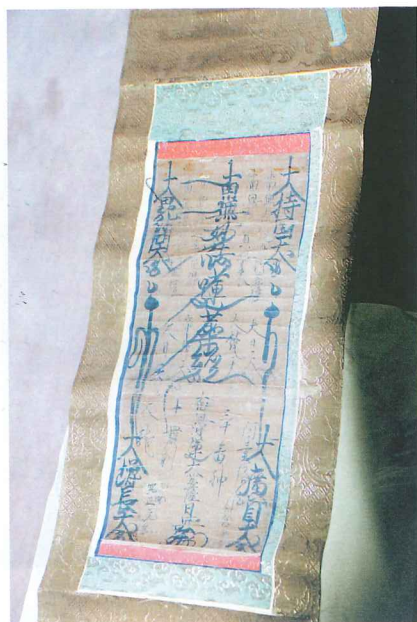
本源寺は、種子島家の菩提寺として第11代島主時氏が創建したものである。

本源寺には宝物として、次の物を秘蔵している。日蓮上人御真筆、日像上人御題目御真筆及び釋迦如来像、宝塔、多宝如来像、日典上人御真筆、日承上人御曼陀羅、吉祥山額、日典像、鬼子母神像、30番神像。

(所在地：西之表市西之表中目 本源寺)

29 法華宗御曼陀羅

有形民俗文化財
(昭和46.5.13)



日典寺には、次の宝物を秘蔵している。本門法華宗の開祖日隆上人、三島の始祖日典上人、三島の二師日良上人、三島の三師日増上人、以上四師の御真筆御曼陀羅。

(所在地：西之表市下西川迎 日典寺)

30 御種子蒔石

有形民俗文化財
(昭和46.5.13)



国上浦田神社の境内に平らな巨石(450cm×250cm)がある。

口碑によると、祭神ウガヤフキアエズノミコトが、この石の上から稲の種子(白米:しろごめ)を蒔き、稲作が全国に広がっていったと伝えられている。

(所在地：西之表市国上浦田 浦田神社)

31 石板碑

有形民俗文化財
(昭和46.5.13)



国上浦田神社拝殿の左後方に、転法石と刻まれた石板碑がある。

法華宗の布教と重要な関係をもつ碑であると思われるが、何を意味するのか不明、またなぜここにあるのかも謎である。

(所在地：西之表市国上浦田 浦田神社)

32 手洗鉢

有形民俗文化財
(昭和58.6.25)



慈遠寺は、大同4年(809)に藤原氏の氏寺である興福寺の末寺として創建された。

島外との文化・経済・交流に大きな役割を果たした。特に天文12年(1543)の鉄砲伝来に際し、明国人、琉球人、ポルトガル人の宿坊にあてられた。しかし、明治元年(1868)の廃仏毀釈により取り壊されてしまった。この手洗鉢は、慈遠寺の唯一の形見である。

(所在地：西之表市西町 八坂神社境内)

33 赤尾木城跡

史跡
(昭和34.8.10)



第17代島主忠時が、寛永元年(1624)現在の榕城小学校の位置に館城を構えて以来、明治2年(1869)版籍奉還まで、種子島家の居城であった。

この城は、山鹿流の築城法によって築かれた。ちなみに、城内に“あこう”の木が茂っていたので、この名があると伝えられる。

(所在地：西之表市西之表中目)

34 種子島家墓地

史跡
(昭和34.8.10)

(御坊墓地)



ここは、島主種子島氏の最初の墓地である。初代から数代の墓は、所在・刻字も不明であったので、第23代久道夫人松寿院が、初代信基から4代真時までを一基にまとめ、法号を刻み詣り墓とした。これが向かって1番目で、7番目は武将第16代久時、10番目は鉄砲伝来の第14代時堯の墓である。この周囲に、入島当時の家臣20家の墓がある。

(所在地：西之表市西之表洲之崎)

(御拝塔墓地)



御牌塔とも書く。第11代時氏が法華宗の本源寺を建て、これを菩提寺としてから、その隣接地を代々島主の2番目の墓所と定めた。第12代忠時、第14代時亮、第16代久時、第18代久時、第19代久基、松寿院、永俊尼などの墓碑は、それぞれ、その功績、遺徳、悲劇を物語っていて、種子島の歴史をしのぶのに感慨深いものがある。

(所在地：西之表市西之表中目)

35 日典上人法華弘布並びに法難の地

史跡
(昭和46.5.13)



日典上人は下西川迎に生まれる。慈遠寺、奈良興福寺に律宗を学ぶ。帰途、尼崎本興寺の日隆上人に師事、法華宗を修業すること十余年。ついに大本山の管長となる。

上人はこの要職も振りすてて帰郷、熱烈に法華宗の布教にあたったが、律宗信者の迫害は強く、ついに寛正4年4月21日の夜、棧敷ヶ丘下の浜辺で残虐きわまりない仕打ちにあい、殉教した。これにより、三島法華の基礎が築かれた。

殉教の地には供養碑、棧敷ヶ丘には日典廟、日典寺、生まれた川迎蔵野には誕生地の碑がある。

(所在地：西之表市下西川迎)

36 能野焼窯跡

史 跡
(昭和50.2.13)



朝鮮系登り窯である。能野焼の起源は元禄末期～宝永初期と推定される。閉窯は明治35年、その間約200年間開業。第1代、2代陶工は伊集院苗代川から来島、主に家庭用日用陶器が作られ、島外にも販路を広めた。

特徴は、素朴で自然美があり、陶土に砂鉄を含むので重厚、男性的でしぶみがある。

(所在地：西之表市住吉上能野)

37 製鉄所跡

史跡
(昭和50.10.9)



市内には数か所その跡地があるが、いずれも不完全である。武部のものは正徳3年(1713)に作られ、不完全ながらその形態、規模が推察できる。製鉄所の条件は、豊富な砂鉄、豊富な照葉樹林(木炭)、流量の一定した川、川に沿った丘陵性の土地である。

(所在地：西之表市現和武部)

38 ガジュマル防潮林

天然記念物
(昭和34.8.10)



種子島を北限とするクワ科の常緑喬木で幹や枝から多くの気根を生じ美観を呈する。主として南西諸島、沖縄、台湾、熱帯地方に生育する。住吉のものは明治初年に防風、防潮、護岸のため、沖縄より移植したと伝えられている。

ガジュマルという和名は、沖縄でこの木を「かぜまもる」といったことに由来するといわれる。

漢字では「榕樹」。

(所在地：西之表市住吉)

39 ソテツ自生群落

天然記念物
(昭和34.8.10)



海岸付近に生えるソテツ科の常緑低木で、雌雄異株。宮崎県以南の暖地、南西諸島に自生する。ここ馬毛島葉山一帯は2 m以上のものが広い範囲に群落をつくり美観を呈する。文化2年(1805)以降、種子島全島の飢饉の際、たびたび、このソテツによって命をつないだと伝えられる。

弱ったソテツに鉄分を与えると、蘇るので「蘇鉄」の名がある。

(所在地：西之表市馬毛島)

40 メヒルギ自生群落

天然記念物
(昭和34.8.10)



マングローブに生えるヒルギ科の常緑小高木で、初夏白い花をつける。果実は樹上で胎生発芽し、長さ20cm前後のこん棒状の幼根となり、翌年落下する胎生植物である。喜入町が北限。種子・屋久以南、亜熱帯、熱帯地方の淡水と海水の交わる泥土状の土地が適地である。

湊川下流域は、樹齢80~100年、樹高2m~8m、面積2ヘクタール。一部に見られる樹高7~8mに達する高木林は、ほかでは見られない。別名をリュウキュウコウガイという。

(所在地：西之表市国上湊)

41 ツキイゲ自生群落

天然記念物
(昭和46.5.13)



海浜の砂丘に群生するイネ科多年生草本で、地表をはう長い枝を出して増える。雌雄異株で全草かたく、葉は針状にとがり、直径20~30cmの球形の雌花序は脱落して、風に吹かれて砂浜を回転しながら、種子をまき散らす。防砂には効果がある。この群落は面積20アールで北限となっている。

原産地は、マレーシア、インド、南中国、沖縄等で学術上貴重な植物である。

(所在地：西之表市上西)

42 ヤッコ草

天然記念物
(昭和48.2.1)



林内に生えるヤッコソウ科（ラフレシア）の1年生寄生植物で、スダジイ（イタジイ）の根に寄生する。葉緑素は全くない。花茎は多肉質で白く、高さ7cmくらい。花には蜜液が多く、メジロや昆虫などが吸蜜にくる。種子は小さく、雨水や動物によって散布される。

四国、九州南部、南西諸島に生育する。形態が奴さんに似ているので、この名がある。

（所在地：西之表市国上浦田小島）

43 漣 痕

天然記念物
(昭和48.2.1)



漣痕とは地層の成層面上に残されているさざ波状のでこぼこをいい、水の流れ、波や風によってたい積物の表面につくられたもの（リップル）が、そのまま地層の中に保存されたものである。

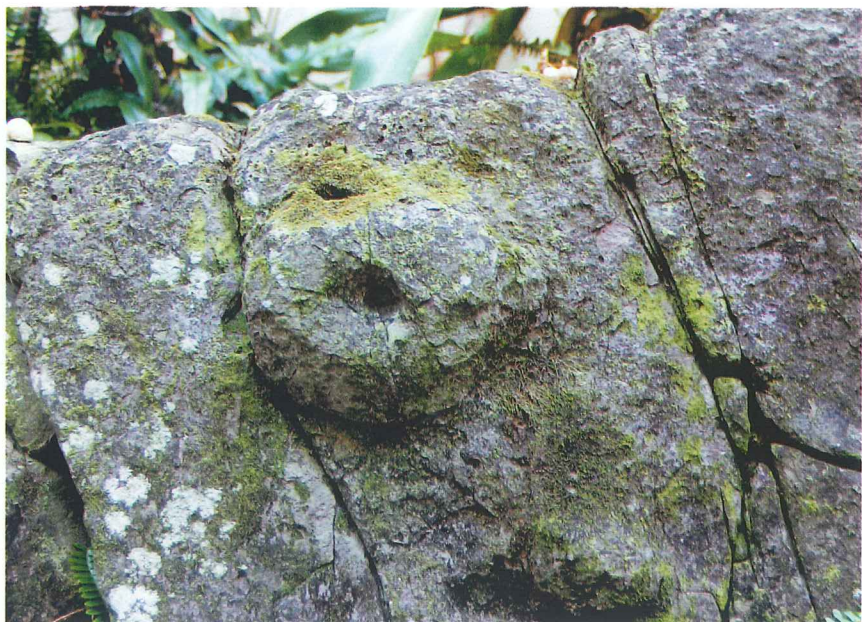
この露頭に見られる熊毛層群（数千万年前）の壁面の漣痕は、浅海で海水がゆれ動くさざ波の形がそのまま残り、その後、地殻変動により、地層が垂直になったものと考えられ、地質学上貴重な資料である。

漣痕のことを最近では「砂紋」とか「リップルマーク」ということもある。

(所在地：西之表市住吉深川)

44 砂火山

天然記念物
(昭和53.8.8)



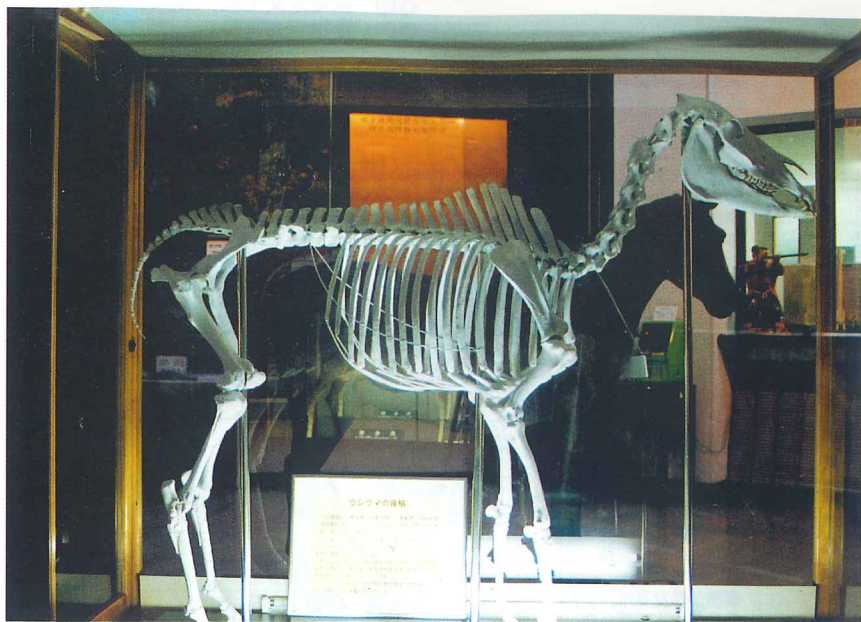
砂火山とは、砂岩層の上面に、お椀をふせたような砂岩の隆起物ができる。その形や内部の構造が火山によく似ているので、この名がある。この伊関海岸のものは、数千万年前の古第三紀層上に群をなして発達し、その大きさは、直径5～10cm、中には20cm内外のものもあり、高さは1～5cmぐらいである。日本では、ここのほかに室戸半島の四万十層群から知られているが、これほど保存状態がよい砂火山は稀で、地質学上極めて貴重な資料である。

典型的な砂火山の一部は、現在、種子島開発総合センターに保存展示されている。

(所在地：西之表市伊関海岸)

45 ウシウマの骨格

天然記念物
(平成4.12.19)



今からおよそ400年前、朝鮮の役の際、島津義弘公が、この奇獣を10頭余り手に入れ連れ帰って飼育した。

島主久時が、安城に芦野牧を設け保護したのが種子島におけるウシウマの飼育の始まりで、天保年間には50頭、明治の初め頃には60頭余りいたが、次第に減り昭和21年6月に最後の一头も息が絶え絶滅した。

このウシウマは「第2平山号」で第4田上号(県立博物館収蔵骨格)の母方の祖父にあたり、年齢27～8歳ぐらいで、体高121cm。昭和31年西之表市西之表字坂ノ下で発掘されたものである。

(種子島開発総合センター展示公開)

西之表市内文化財地図

- 〔凡例〕
- 印…国指定文化財
 - ◎印…県指定文化財
 - 印…市指定文化財

- 全島
- アカヒゲ
 - カラスバト
 - オカヤドカリ

種子島開発総合センター内

- ◎種子島銃
- ◎種子島文書
- ◎奥ノ仁田遺跡出土品
- 矢及び矢尻 2件
- 能野焼花瓶
- 丸木舟製作工具
- 丸木舟資料
- 伝八板金兵衛作火縄銃
- 鉄砲鍛冶文書
- 猿投窯灰釉長頸瓶
- 長沙窯青磁水注片
- 越州窯青磁破片
- 南宋電泉窯青磁中型椀
- 金メダル
- ウシウマの骨格

◎大的始式

- 鐐(市)
- 小刀(市)
- 太鼓山
- 温座祈念 2件
- 本源寺石塔・什宝
- 法華宗御曼陀羅
- 赤尾木城跡
- 種子島家墓地
- 日典上人法華弘布並びに法難の地
- 脇差し
- 水さし
- 絵馬
- 手洗鉢

ソテツ自生群落



文化財一覽

【国指定】

種 別	名 称	指定年月日
天然記念物	アカヒゲ	S.45.1.23
〃	カラスバト	S.46.5.19
〃	オカヤドカリ	S.45.11.12

【県指定】

種 別	名 称	所在地	所有者等	指定年月日
有形(工芸品)	種子島銃	開発総合センター	種子島 時邦	S.30.1.14
有形(古文書)	種子島文書	開発総合センター	種子島 時邦	S.39.3.23
無形民俗	種子島大踊	西之表市現和	保存会	S.43.3.29
〃	横山盆踊	西之表市上西	保存会	S.43.3.29
〃	めん踊	西之表市住吉	保存会	S.46.5.31
〃	大的始式	西之表中目	保存会	S.4.3.23
有形(考古資料)	奥ノ仁田遺跡出土品	開発総合センター	西之表市	S.11.3.19

【市指定】

種 別	名 称	所在地	所有者等	指定年月日
有(工芸品)	矢及び矢尻	開発総合センター	種子島チカ	S.37.8.30
有(工芸品)	矢及び矢尻	西之表小牧	河内ひさ子	S.37.8.30
有(工芸品)	鏢	西之表納曾	河内家	S.37.8.30
有(工芸品)	小刀	西之表中目	井元正流	S.37.8.30
有(工芸品)	能野焼花瓶	開発総合センター	開発総合センター	S.39.2.20
有(工芸品)	脇差し	西之表松島	田上 容正	S.52.1.13
有(工芸品)	伝八板金兵衛作火縄銃	開発総合センター	種子島時邦	S.52.9.8
有(書跡)	鉄砲鍛冶文書	開発総合センター	開発総合センター	S.53.7.11
有(歴史資料)	猿投窯灰釉長頸瓶	開発総合センター	開発総合センター	S.53.7.11
有(歴史資料)	越州窯青磁破片	開発総合センター	開発総合センター	S.53.7.11
有(歴史資料)	長沙窯青磁水注片	開発総合センター	開発総合センター	S.53.7.11
有(歴史資料)	南宋竜泉窯青磁中型碗	開発総合センター	開発総合センター	S.53.7.11
有(歴史資料)	金メダル	開発総合センター	開発総合センター	S.55.7.1
有(歴史資料)	水さし	西之表市伊関	鎌倉 平吉	S.55.7.1
有(歴史資料)	絵馬	西之表中目	栖林神社	S.58.6.25
無形民俗	源太郎踊	西之表市住吉	源太郎踊保存会	S.39.2.20
無形民俗	獅子舞	西之表市古田	獅子舞保存会	S.44.11.13
無形民俗	安納棒踊	西之表市安納	安納棒踊保存会	S.49.1.1
無形民俗	太鼓山	八坂神社	太鼓山保存会	S.42.4.13
無形民俗	舟祝い唄	西之表市住吉	浜之町集落	S.43.12.1
無形民俗	温座祈念	西之表中目	本源寺	S.46.5.13
無形民俗	温座祈念	西之表市下西川迎	日典寺	S.46.5.13
無形民俗	古田棒踊	西之表市古田	保存会	H.11.4.7
無形民俗	花踊	西之表市国上	保存会	S.55.7.1
有形民俗	丸木舟製作工具	開発総合センター	長野実美	S.44.4.12
有形民俗	丸木舟資料	開発総合センター	開発総合センター	S.44.4.12
有形民俗	本源寺石塔	西之表中目	本源寺	S.46.5.13

有形民俗	本源寺什宝	西之表中目	本源寺	S.46. 5.13
有形民俗	法華宗御曼陀羅	西之表市下西川迎	日典寺	S.46. 5.13
有形民俗	御種子蒔石	西之表国上浦田	浦田神社	S.46. 5.13
有形民俗	石板碑	西之表国上浦田	浦田神社	S.46. 5.13
有形民俗	手洗鉢	西之表西町	八坂神社	S.58. 6.25
史跡	赤尾木城跡	西之表中目	西之表市	S.34. 8.10
史跡	種子島家墓地	西之表中目	種子島時邦	S.34. 8.10
史跡	日典上人法華弘布並びに法難の地	西之表市下西川迎	日典寺	S.46. 5.13
史跡	能野焼窯跡	西之表市住吉	能野老人クラブ	S.50. 2.13
史跡	製鉄所跡	西之表市現和	上妻英勝	S.50.10. 9
天然記念物	ガジュマル防潮林	西之表市住吉	住吉校区	S.34. 8.10
天然記念物	ソテツ自生群落	西之表市馬毛島	西之表市	S.34. 8.10
天然記念物	メヒルギ自生群落	西之表市国上湊	国上校区	S.34. 8.10
天然記念物	ツキイゲ自生群落	西之表市上西	営林署	S.46. 5.13
天然記念物	ヤッコ草	西之表市国上浦田	西之表市	S.48. 2. 1
天然記念物	漣痕	西之表市住吉深川	西之表市	S.48. 2. 1
天然記念物	砂火山	開発総合センター	開発総合センター	S.53. 8. 8
天然記念物	ウシウマの骨格	開発総合センター	開発総合センター	H. 4.12.19

『西之表市文化財要覧』

2002年3月発行

編集・発行 西之表市教育委員会
〒891-3193
鹿児島県西之表市西之表7612番地
TEL 09972-2-1111 (内線295)
FAX 09972-2-0206

印 刷 (有) 種子島新生社印刷
〒891-3101
鹿児島県西之表市西之表16736-1
TEL 09972-2-0476
FAX 09972-2-0721